

## 消費者動向調査 No.99

# テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 18 年 11 月

調査対象 福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人  
(うち回答者 476 人、回答率 95.2%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	8.5
30代	23.2
40代	35.3
50代	25.3
60代	7.7

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	43.8
妻だけ	14.5
両方	41.7

西日本シティ銀行

## [調査結果本文]

政府が公表する月例経済報告によると、今の景気拡大期間が11月で4年10ヶ月となり、「いざなぎ景気」(1965-70年、4年9ヶ月)を抜いて戦後最長となりました。昨年からは雇用・所得環境の改善が進み、景気回復の恩恵が徐々に家計部門に波及してきたともいわれています。しかし、年金などの社会保障問題や消費税増税など将来の負担増も現実味を増しているようです。

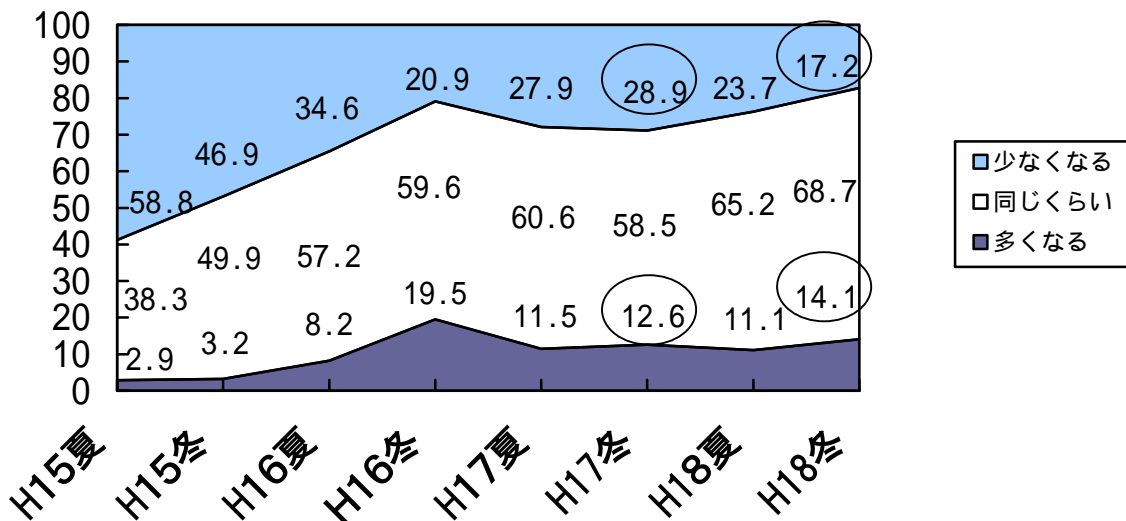
このような環境の中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

### 今年の冬のボーナス、昨年冬と比較して“少なくなる”が11.7ポイント減少。“多くなる”が1.5ポイント増加。全体的に回復基調を維持。

今回の調査で、冬のボーナスが“昨年より少なくなる”と予想する割合が11.7ポイント減少、“昨年より多くなる”も1.5ポイント増加し、回復基調を維持している。

[グラフ1：冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]

(単位：%)



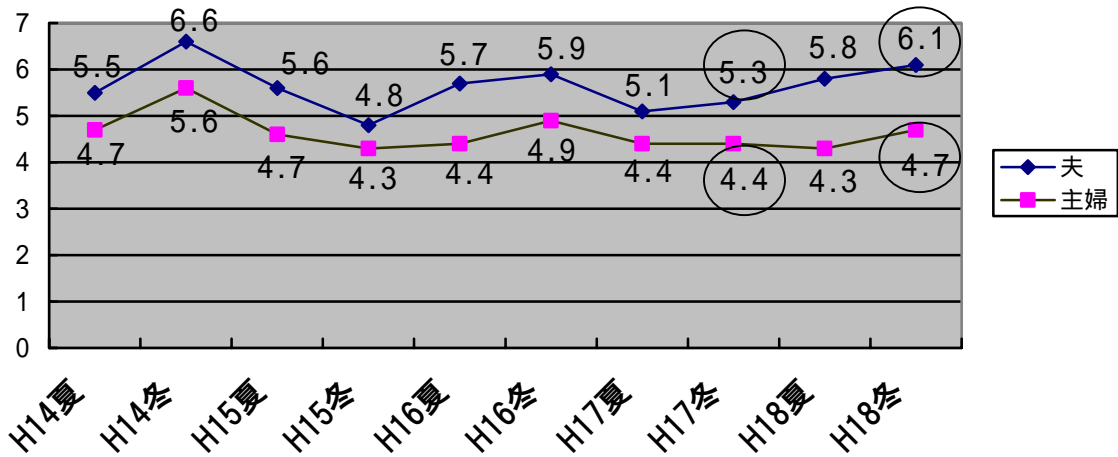
◆ 冬のボーナス、自由に使える金額は、夫婦ともに上昇！主婦は 4.7 万円、夫は 6.1 万円。

主婦が自由に使える金額は平均 4.7 万円（昨年冬比 +0.3 万円）、夫が自由に使える金額は平均 6.1 万円（昨年冬比 +0.8 万円）にアップ。景気回復の恩恵が徐々に家計にも波及しつつあるようだ。

[グラフ 2：自由に使える金額はどれくらいですか]

(単位:万円)

〈ピーク〉  
夫 :9.3 万円(H9)  
主婦:7.9 万円(同)



[表 1：主婦と夫が自由に使える額]

(単位:%)

	主婦	夫
1万円未満	13.5	6.0
1~3万円未満	33.3	20.2
3~5万円未満	29.2	35.1
5~10万円未満	14.8	26.2
10~20万円未満	6.0	8.7
20~30万円未満	3.0	3.6
30~40万円未満	0.2	0.2
40~50万円未満	0.0	0.0
50万円以上	0.0	0.0
<b>平均</b>	<b>4.7万円</b>	<b>6.1万円</b>

**冬のボーナスの使いみち予定は今回も「預・貯金」がトップ。「家計補充」が2位。**

冬のボ - ナスの支出予定トップは今回も「預・貯金」で昨年冬と比較すると2.5ポイント増加した。消費者の貯蓄意識は依然として強いようだ。

[表2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）]

（単位：％）

項目	全体
預・貯金	46.8
生活費の補てん	33.2
子供の教育費	27.1
衣料品等の購入	27.1
旅行・レジャー	26.9
住宅ローンの返済	24.4
お歳暮	21.0
自動車（ローン返済含む）	13.4
耐久消費財の購入	11.8
両親・子供への小遣い	8.4
クレジットの返済	6.1
その他	16.0

[表3：冬のボーナスは何に使う予定ですか（時系列比較）]

（単位：％）

	H15 冬	H16 冬	H17 冬	H18 冬
預・貯金	40.2	55.7	44.3	<b>46.8</b>
生活費の補てん	33.9	31.7	33.3	<b>33.2</b>
子供の教育費	31.6	31.7	30.3	<b>27.1</b>
衣料品等の購入	22.5	26.1	27.1	<b>27.1</b>
旅行・レジャー	21.1	21.7	26.9	<b>26.9</b>
住宅ローン返済	33.7	30.0	25.8	<b>24.4</b>

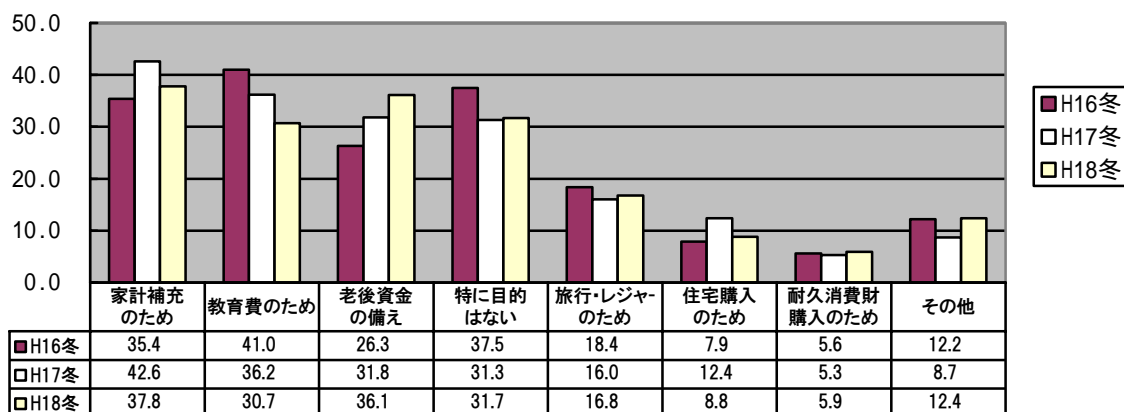
6位：お歳暮

**冬のボーナス貯蓄の目的で“老後資金の備え”が昨年冬に比べ、4.3ポイント上昇。平成16年冬からは9.8ポイント上昇。**

“冬のボーナス貯蓄の目的は何か？”の問いには、“将来の家計補充”が昨年に続きトップ。続いて、“老後資金の備え”が2位。景気は回復基調であるものの、年金などの社会保障問題など将来の負担増も現実味を増していることを反映してか老後資金を貯蓄目的とする人が増えているようだ。特に50代、60代は“老後の備え”が過半数を大幅に超えているのが、他の世代に比べて特徴的であり、老後への不安が顕著に表れている。

[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]

（単位：％）



[表4：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（年代別）]

（単位：％）

	全体	20代	30代	40代	50代	60代
家計補充のため	37.8	45.0	39.4	35.5	42.0	27.8
教育費のため	30.7	27.5	47.7	45.2	5.9	2.8
老後資金の備え	36.1	7.5	18.3	30.1	61.3	72.2
特に目的はない	31.7	27.5	39.4	31.3	28.6	30.6
旅行・レジャーのため	16.8	15.0	10.1	17.5	21.0	25.0
住宅購入のため	8.8	32.5	14.7	4.8	4.2	0.0
耐久消費財購入のため	5.9	5.0	5.5	4.2	9.2	5.6
その他	12.4	17.5	8.3	14.5	12.6	11.1

冬のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは「金融機関の店頭セールス」が過半数でトップ。「新聞・雑誌」が2位。

主婦が冬のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは「金融機関の店頭セールス」が過半数でトップとなった。続いて2位は「新聞・雑誌」で約3割。ワン・トゥ・ワンのコミュニケーションが重視されているようだ。

[表5：冬のボーナスを貯蓄する際、参考にするものは何ですか(2つまで)]

(単位：%)

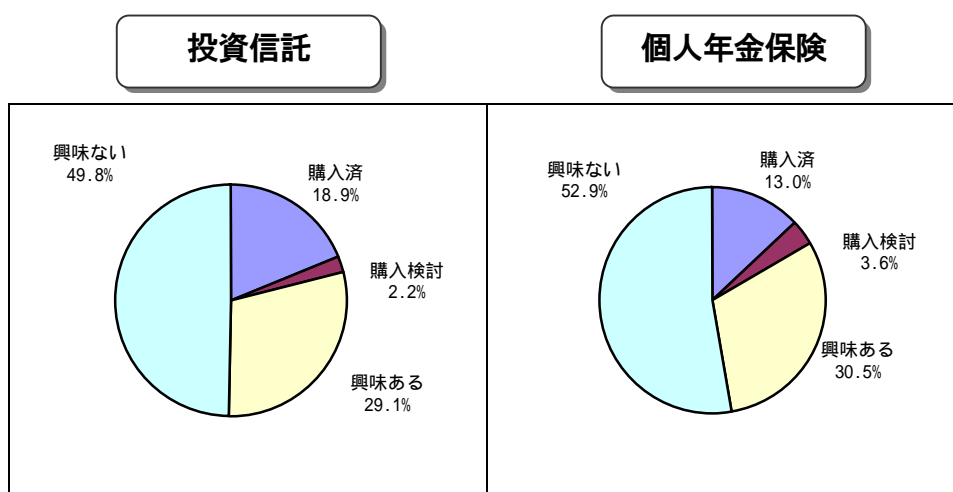
項目	全体
金融機関の店頭セールス	50.2
新聞・雑誌	28.4
ポスター・チラシ等	16.4
金融機関の電話によるセールス	15.8
テレビCM等	14.5
インターネット	12.2
その他	25.4

## 冬のボーナスの貯蓄・運用にあたり、投資信託を“既に購入している”が、今年夏と比べ 8.2 ポイント増加！

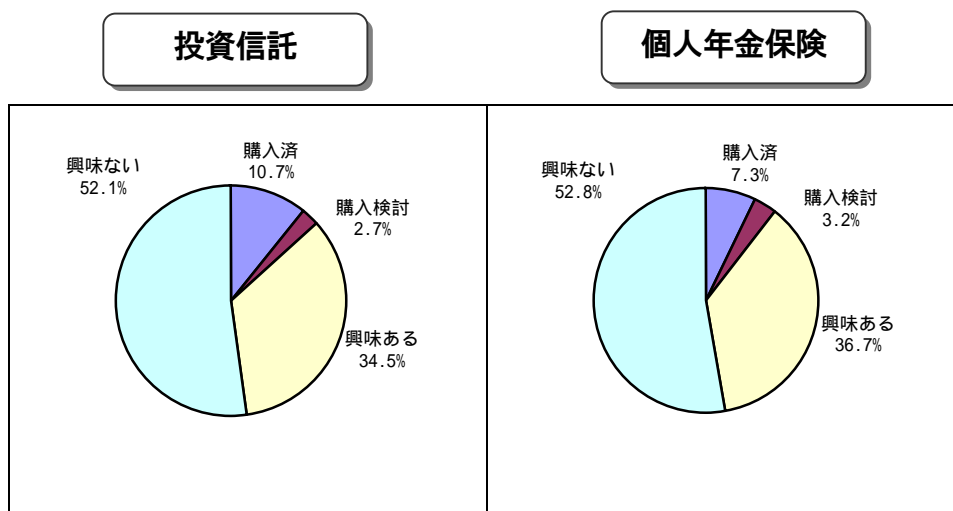
冬のボーナスの貯蓄・運用にあたり、投資信託について“既に購入している”が、今年夏に比べ 8.2 ポイント増加。銀行が取り扱っている個人年金保険について“既に購入している”が、今年夏に比べ 5.7 ポイント増加。「貯蓄から投資へ」の流れが徐々に進んでいるようだ。

[グラフ 4：ボーナスの貯蓄・運用について]

..... (平成 18 年冬) .....



..... (平成 18 年夏) .....



個人年金保険は銀行が取り扱っているものについて

## 特別調査結果

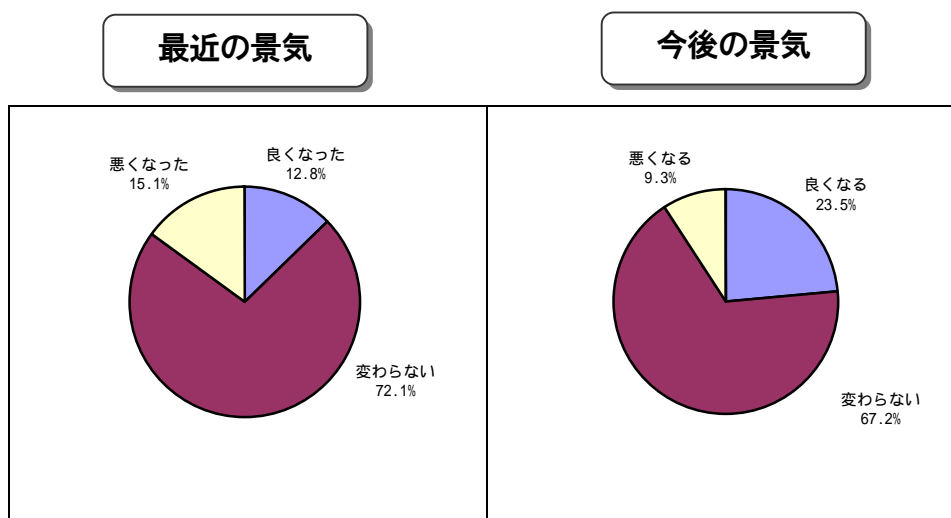
現在の景気拡大期間が戦後最長の「いざなぎ景気」を超えたが、主婦の景気についての実感はどうなのかを調査した。

**最近、景気は良くなったと思うかの問いに対し、“悪くなった”と回答した主婦が15.1%と、“良くなった”の12.8%を上回った。**

最近、景気は良くなったと思うかの問いに対し、“良くなった”が12.8%、“変わらない”72.1%、“悪くなった”15.1%と景気回復の実感までには結びついていないようだ。しかし、今後の景気については“良くなる”23.5%が“悪くなる”9.3%を14.2ポイント上回っており、将来の景気回復については期待感がうかがえる。

[グラフ5：景気の実感について]

(単位：%)



以上

この調査に関するお問い合わせは  
西日本シティ銀行 広報部 堺 まで  
TEL 092-461-1869